

(別添)

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時： 年 月 日 午前・午後 時

調査者氏名： 資格 () 建築士 () 登録 第 号

所属事務所名：

- (添付書類)
- 1 建築士事務所に所属していることを証する書類
 - 2 建築士免許証の写し

I) 建築物の概要

1. 建築物の所有者：
2. 建築物所在地：
3. 階数：

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

チェック欄

木造住宅である	
昭和 56 年 5 月 31 日以前に新築の工事に着手した*	

*検査済証又は登記事項証明書で昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築されたことが確認できない場合は確認済証(又は台帳記載事項証明)を添付してください。

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

IV) 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が 0.8 未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建面(m ²)	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X					
Y					

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

The grid is used for recording wall measurements. It consists of a 20x20 grid of squares. A vertical line is drawn between the 2nd and 3rd columns. In the bottom-left corner, there is a coordinate system with a vertical arrow pointing up labeled 'Y方向' and a horizontal arrow pointing right labeled 'X方向'. A double-headed arrow between the vertical and horizontal axes is labeled '1m', indicating the scale of the grid.

(イ) 壁の長さの合計

① X(横)方向

① m

② Y(縦)方向

② m

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ m

(ロ) 面積

ロ m²

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ ÷ ロ = ハ

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数 屋根の種類	平家	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ ÷ ニ = ホ